

2027年3月期第1四半期 決算説明資料 트레이ダーズホールディングス株式会社

証券コード：8704
2026年7月31日



JPX-NIKKEI Mid Small



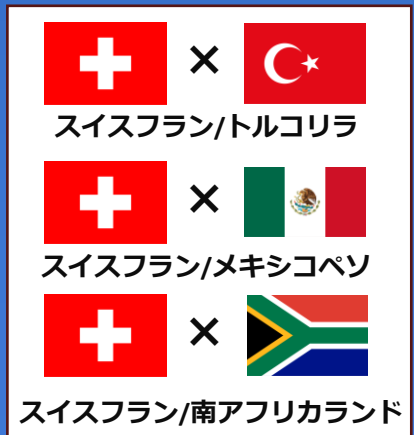
金融を、もっと面白く。

当社グループの競争優位性

- ✓ これまで当社グループは、商品力およびシステム開発力を基盤に新たな価値を創出してきました。
今後はこれらの強みをさらに進化させるとともに、プロダクト創出力および知財戦略という新たな力を確立し、さらなる競争優位と新たな価値提供を実現してまいります。



- ・ 業界最高水準のスプレッド
スワップが生み出す、
強い競争力



新領域



- ・ 20年以上のFX専門知見に裏打ちされた圧倒的な問題解決力
- ・ 市場変化に即応する圧倒的な開発スピード
- ・ グループシナジーによる低コスト運営を実現

- ・ 知財で超過収益力を防衛
- ・ 独自性の確立と競争優位の強化
- ・ 収益機会の最大化

- 1 2027年3月期 第1四半期業績ハイライト**
- 2 2027年3月期の施策**
- 3 株主還元**
- 4 Appendix**

金融を、もっと面白く。



2027年3月期 第1四半期 業績ハイライト

2027年3月期第1四半期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



営業収益



3,974 百万円

前年同期比 +31.7%

営業利益



2,097 百万円

前年同期比 +50.2%

営業利益率



52.8 %

前年同期比 +6.6ポイント

預り資産



1,390 億円

前期末比増減 +57億円

- ✓ 当第1四半期は、前期から続くレンジ相場の傾向がさらに強まり（P.8参照）、ボラティリティが縮小する厳しい市場環境となった
- ✓ このような状況下、4月・5月の為替介入に伴う相場変動局面での取引増加、およびイラン情勢に絡む地政学リスクから一部通貨の金利市場が不安定となったことが収益機会となり、顧客に最高水準のスプレッド・スワップポイントを提供しつつ、当社も一定の収益確保を行うことができた結果、営業収益は39億円となり、四半期ベースで過去3番目の収益水準を確保し、高水準の営業利益率を維持
- ✓ 預り資産は前期末比57億円増加し、通期目標168億円増加に向けて順調に進捗一方で、業界上位各社の施策強化により競争が一段と激化、第1四半期の純増額は開示比較ベースで業界2位

通期業績予想に対する四半期連結業績の進捗率

金融を、もっと面白く。



- ✓ 営業収益・営業利益はいずれも進捗率25%を上回り、預り資産も順調に業績予想に対する進捗は概ね計画通り
- ✓ 預り資産は第1四半期で通期増加目標の約35%まで進捗し、通期目標1,500億円に向けて順調なスタート

2027年3月期
通期業績予想

1Q実績

営業収益

3,974
(百万円)

進捗率 25.3%

15,700 (百万円)

営業利益

2,097
(百万円)

進捗率 30.0%

7,000 (百万円)

経常利益

2,080
(百万円)

進捗率 29.7%

7,000 (百万円)

親会社株主に帰属する
四半期純利益

1,426
(百万円)

進捗率 29.7%

4,800 (百万円)

預り資産残高

+57億円

進捗率 34.3%

1,500億円

2026年3月末
1,332億円

25%

2026年6月末
1,390億円

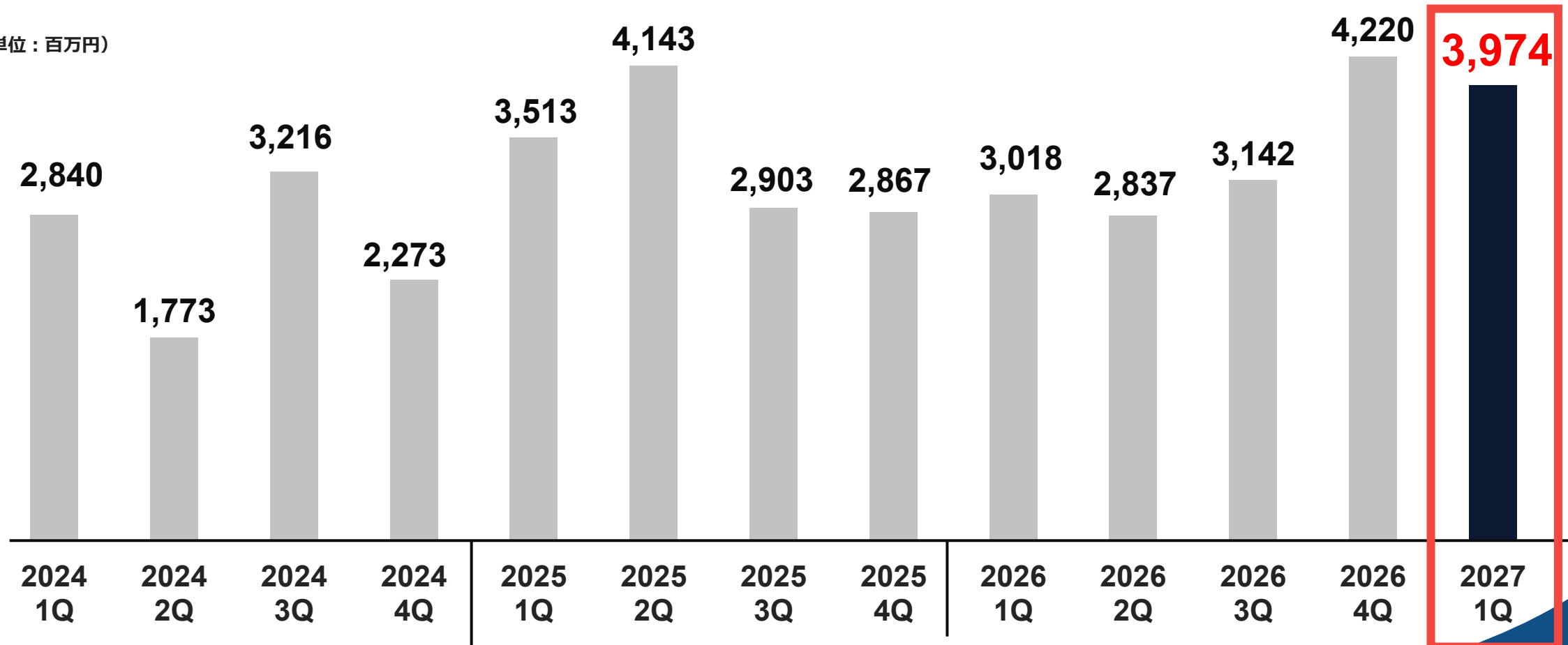
業績推移（営業収益）

金融を、もっと面白く。



- ✓ ドル円相場を中心にボラティリティ縮小が続くも、為替介入による急変動および中東情勢の地政学リスクの高まりから一部通貨の金利市場が不安定化したことを収益機会として高水準の営業収益確保に成功

（単位：百万円）

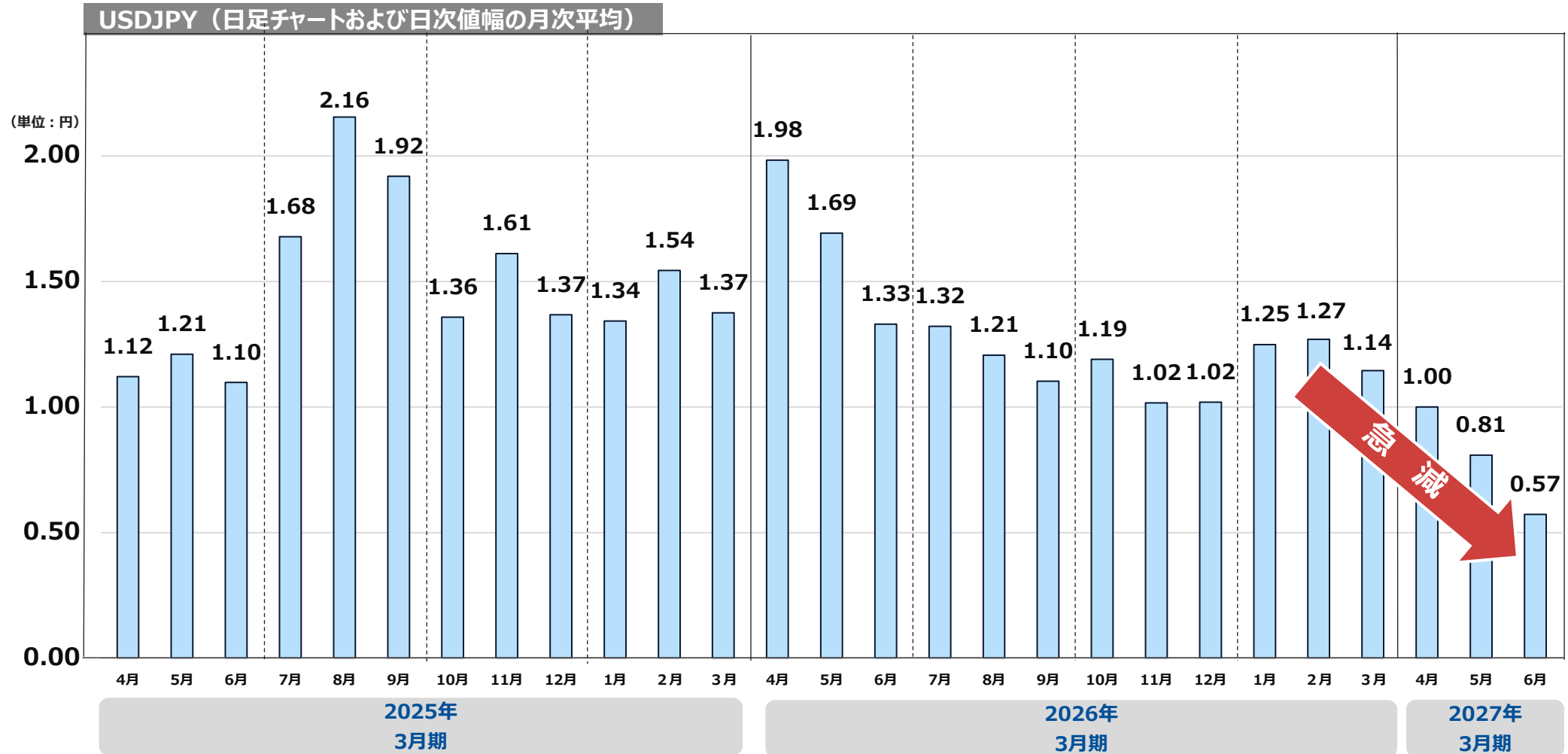


【補足説明】過去3期分のドル/円日次値幅の月次平均推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 前期より継続している低ボラティリティ環境が四半期を通じて一段と深刻化 ドル/円の1日当たり値幅（月次平均）は、3か月連続で縮小
- ✓ 前期もレンジ相場が継続していたものの、ドル/円の月次平均日次値幅は1円を下回ることにはなかったが、
当第1四半期はすべての月で1日あたりの平均値幅が1円以下となり、前期以上に値動きの乏しい市場環境となった



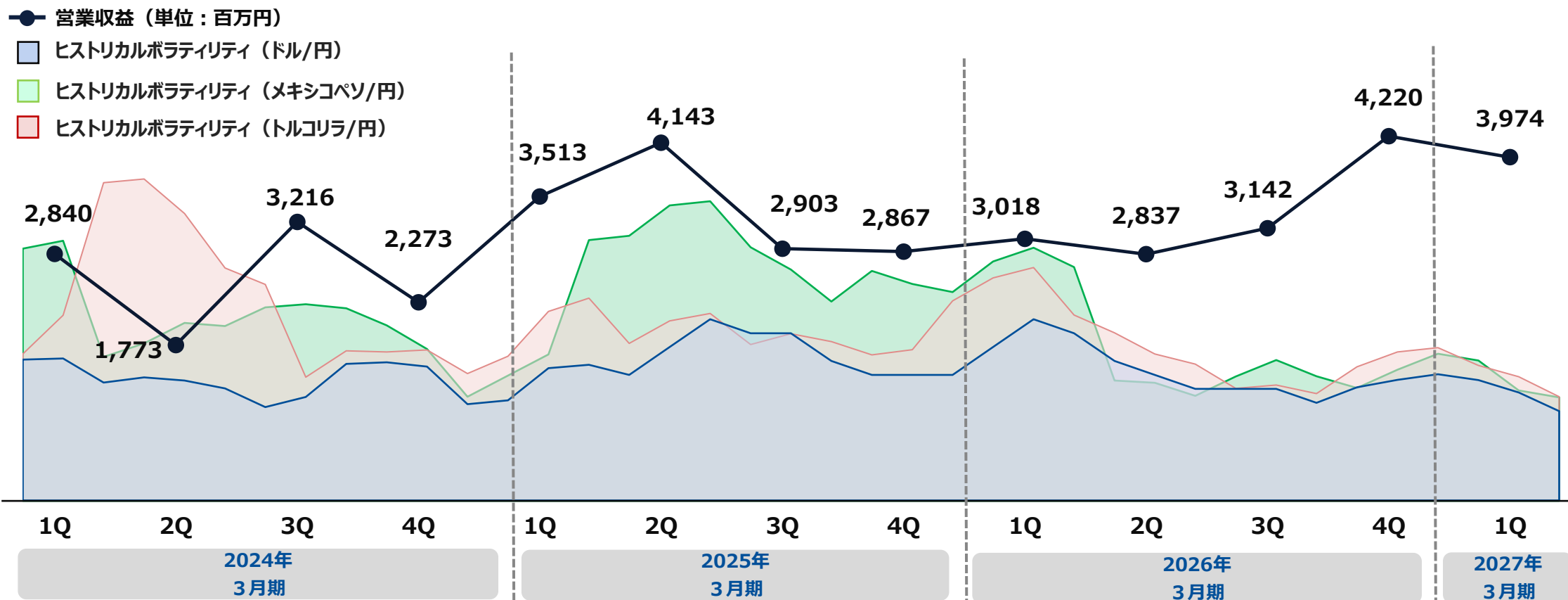
【補足説明】2027年3月期第1四半期 市況概況

金融を、もっと面白く。



- ✓ 第1四半期ではドル/円に加え、当社顧客の取引ニーズが高いメキシコペソ/円・トルコリラ/円でもヒストリカルボラティリティが低下
- ✓ 値動きが抑制され、売買が活性化しづらい四半期となった

ヒストリカルボラティリティ※の推移



※ヒストリカルボラティリティとは、テクニカル分析手法の一つで、過去のデータに基づいて統計的に算出した価格の変動率のこと。
 過去の価格変動が小さければ、ヒストリカルボラティリティは小さくなり、過去の価格変動が大きければ、ヒストリカルボラティリティも大きくなる。
 上図では四半期会計期間である過去60日の値動きデータに基づき計算。

2027年3月期 第1四半期 市況概況

金融を、もっと面白く。



USDJPY (日足チャート)



市況概況

第1四半期では、4月にドル/円は158円台後半から160円台前半で推移し、日米金利差を背景に底堅い展開となりました。日銀合では政策金利が据え置かれた一方、利上げを主張する委員もあり、金融政策正常化への思惑も意識されました。

4月末から5月にかけて実施された大規模な為替介入を受け、一時155円台まで円高方向に振れました。その後は介入効果が徐々に薄れ、月後半には159円台までドル/円が戻す展開となりました。

6月にはドル/円は再び円安方向に推移し、月末には162円台まで上昇しました。日銀は利上げを実施したものの、米国金利の高止まりや為替介入の不在が意識され、円安基調が継続しました。

国内FX市場全体の取引高推移

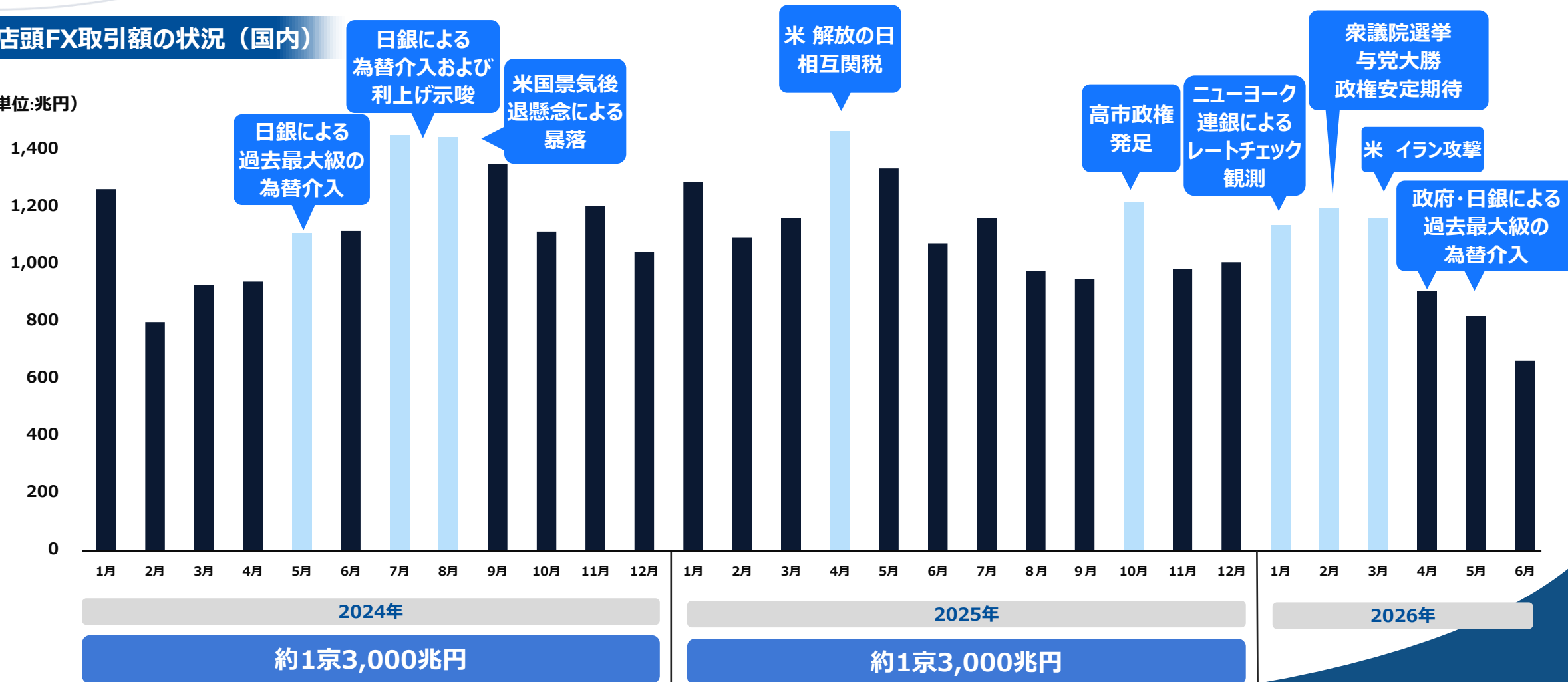
金融を、もっと面白く。



- ✓ 2026年4月～6月の国内FX市場全体の取引高は低水準で推移
- ✓ 特に6月は600兆円台となり、月間取引高が700兆円を下回るのは、ロシアによるウクライナ侵攻が発生した2022年2月以来、4年4か月ぶり

店頭FX取引額の状況（国内）

（単位：兆円）



【補足説明】当社における顧客建玉数の推移（四半期）

金融を、もっと面白く。

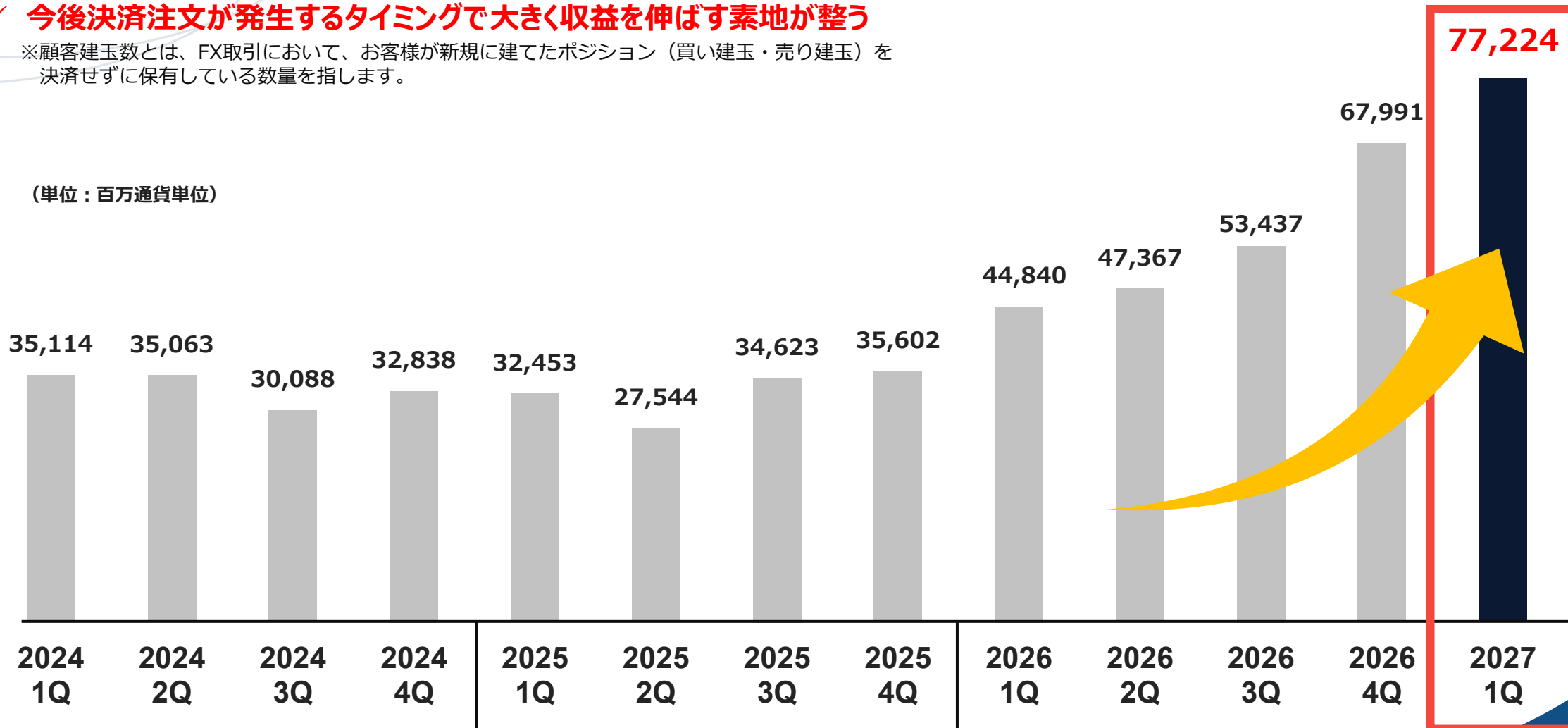


✓ 為替介入が実施されるも顧客建玉数は前期に引き続き増加ペースが上昇 四半期ごとに過去最高をさらに更新

✓ 今後決済注文が発生するタイミングで大きく収益を伸ばす素地が整う

※顧客建玉数とは、FX取引において、お客様が新規に建てたポジション（買い建玉・売り建玉）を決済せずに保有している数量を指します。

（単位：百万通貨単位）



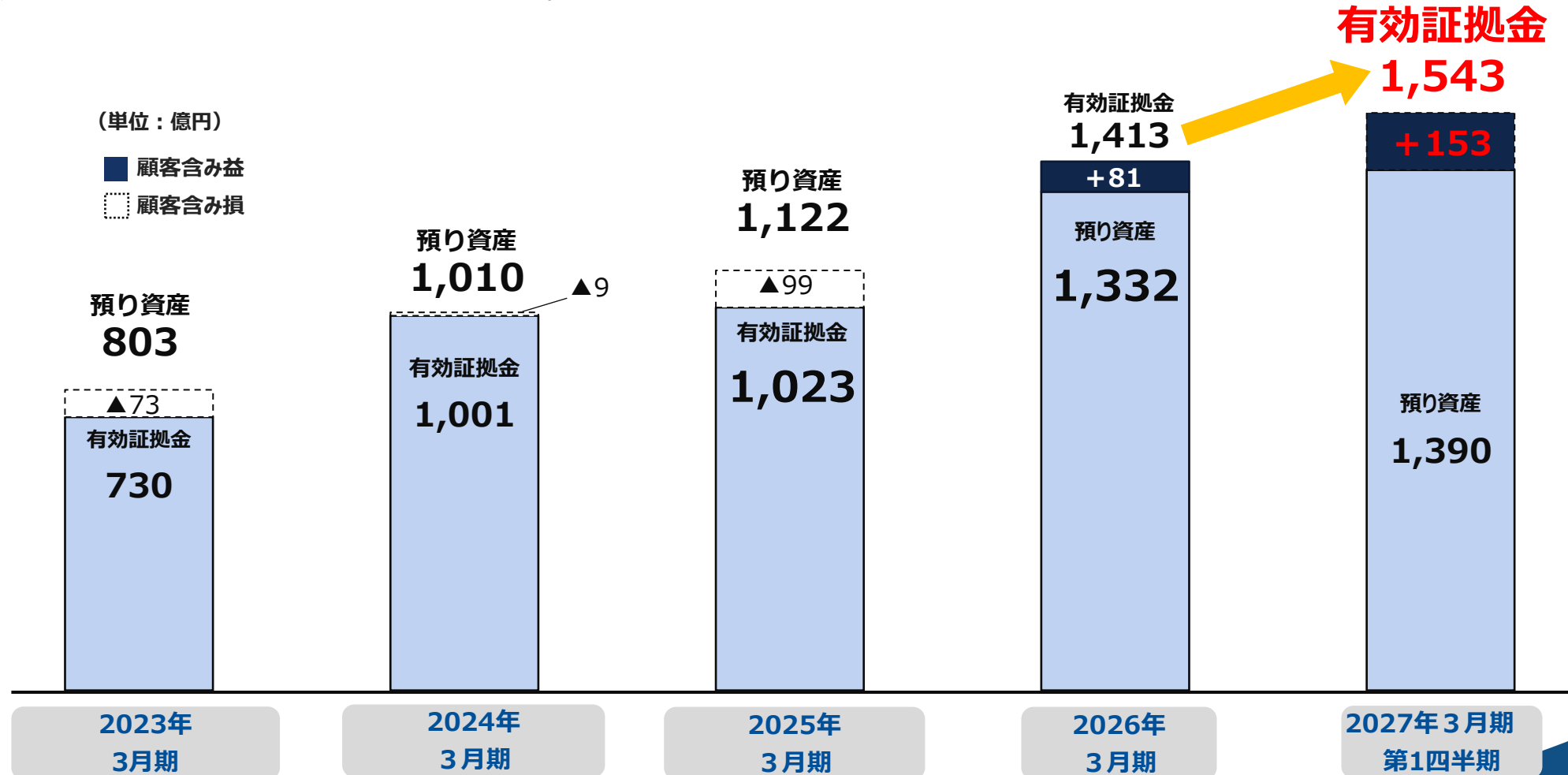
【補足説明】有効証拠金の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 顧客含み損益は前期に引き続き増加 今期の含み益はさらに増加し**150億円を超え**有効証拠金は**1,500億円を超**
- ✓ 顧客の潜在的な投資余力の増加から、当社の**将来収益の増加**が期待できる状況に

※有効証拠金とは預り資産に未実現損益（建玉の含み損益）を加減した金額です。

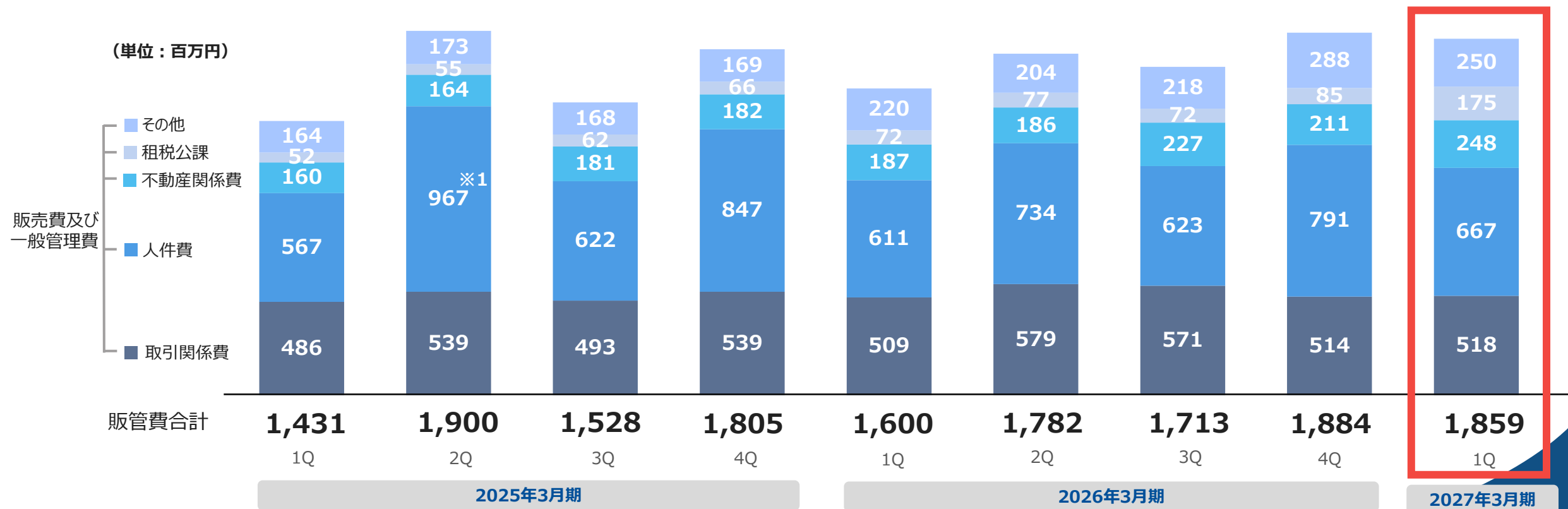


販管費の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産の目標達成に向け、マーケティング費用の積極投下には引き続き注力しつつ、取引関係費は前期並み
- ✓ 4月に実施した給与改定に伴い、人件費は前年同期比で微増
- ✓ 前年下期に恵比寿ガーデンプレイスタワー内のオフィスを増床したため、不動産関連費用が増加
- ✓ 日銀の利上げを反映した金融収益の増加に伴い、支払消費税のうち控除(還付)の対象とならない金額が増加したため、費用処理した消費税が増加し租税公課が前年同期比で増加



※1 会計上の見積もり変更反映による一時的増加約2.5億円を含んだ金額

※ 端数処理により、各項目の合計が合計値と一致しない場合があります。

【参考】連結業績の四半期ごとの比較

金融を、もっと面白く。



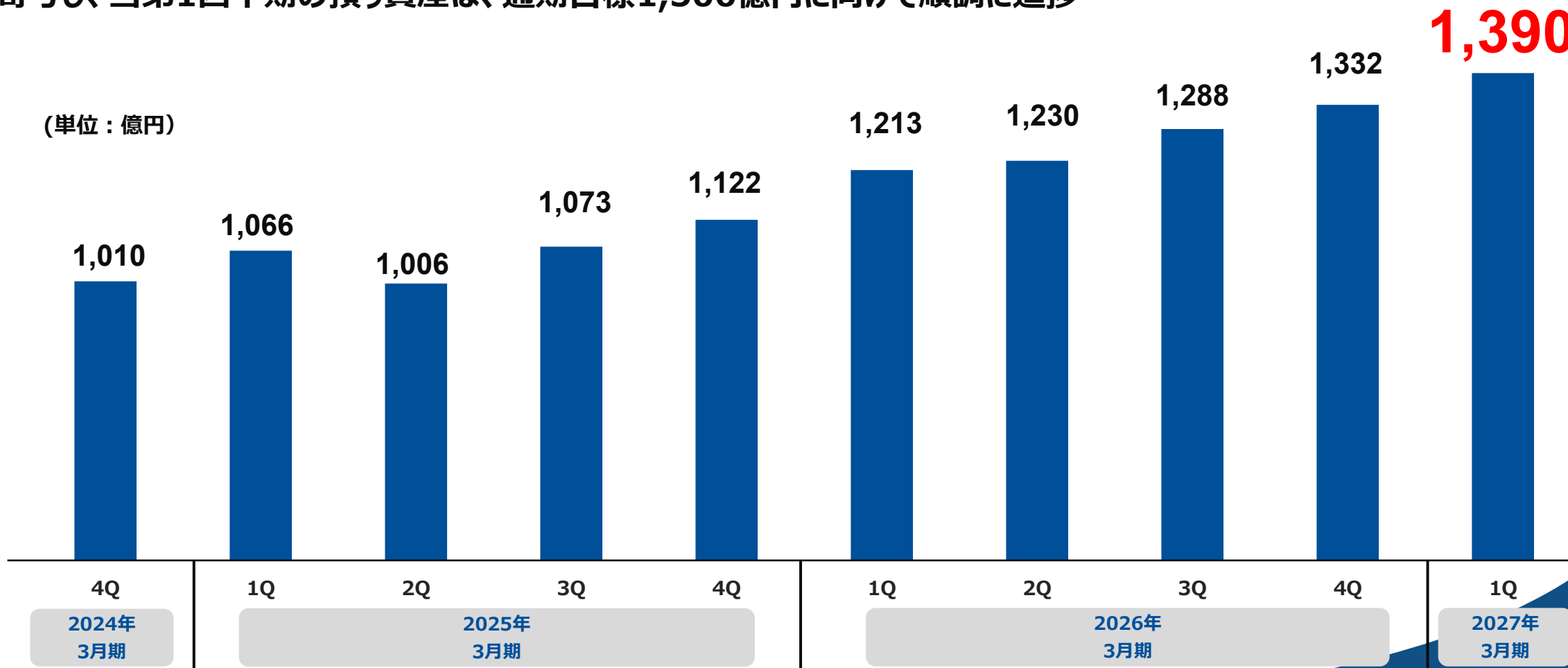
(単位：百万円)	2026年3月期				2027年3月期	前年同期比
	1Q (2025年4-6月)	2Q (2025年7-9月)	3Q (2025年10-12月)	4Q (2026年1-3月)	1Q (2026年4-6月)	
営業収益	3,018	2,837	3,142	4,220	3,974	+31.7%
営業利益 (利益率)	1,395 (46.2%)	1,034 (36.5%)	1,410 (44.9%)	2,320 (55.0%)	2,097 (52.8%)	+50.2%
経常利益 (利益率)	1,413 (46.8%)	1,029 (36.3%)	1,409 (44.9%)	2,308 (54.7%)	2,080 (52.4%)	+47.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,079 (35.8%)	668 (23.5%)	1,000 (31.8%)	1,496 (35.4%)	1,426 (35.9%)	+32.1%

預り資産推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 大型キャンペーン終了に伴う反動減はあったものの、当社の基本戦略である**最高水準のスプレッド・スワップポイントの提供を継続**してきたことが、**安定的な相場環境の継続のもと、スワップ投資の顧客層の新規導入および顧客のスワップ利益の拡大**に寄与し、当第1四半期の預り資産は、通期目標1,500億円に向けて順調に進捗

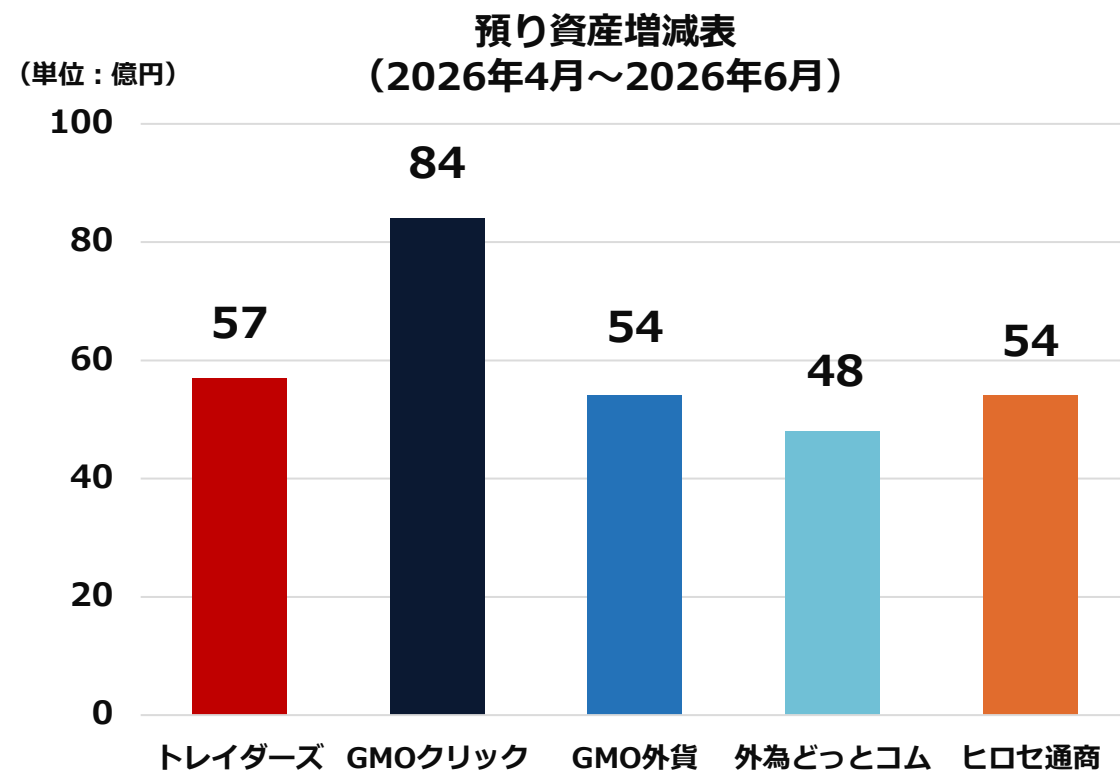
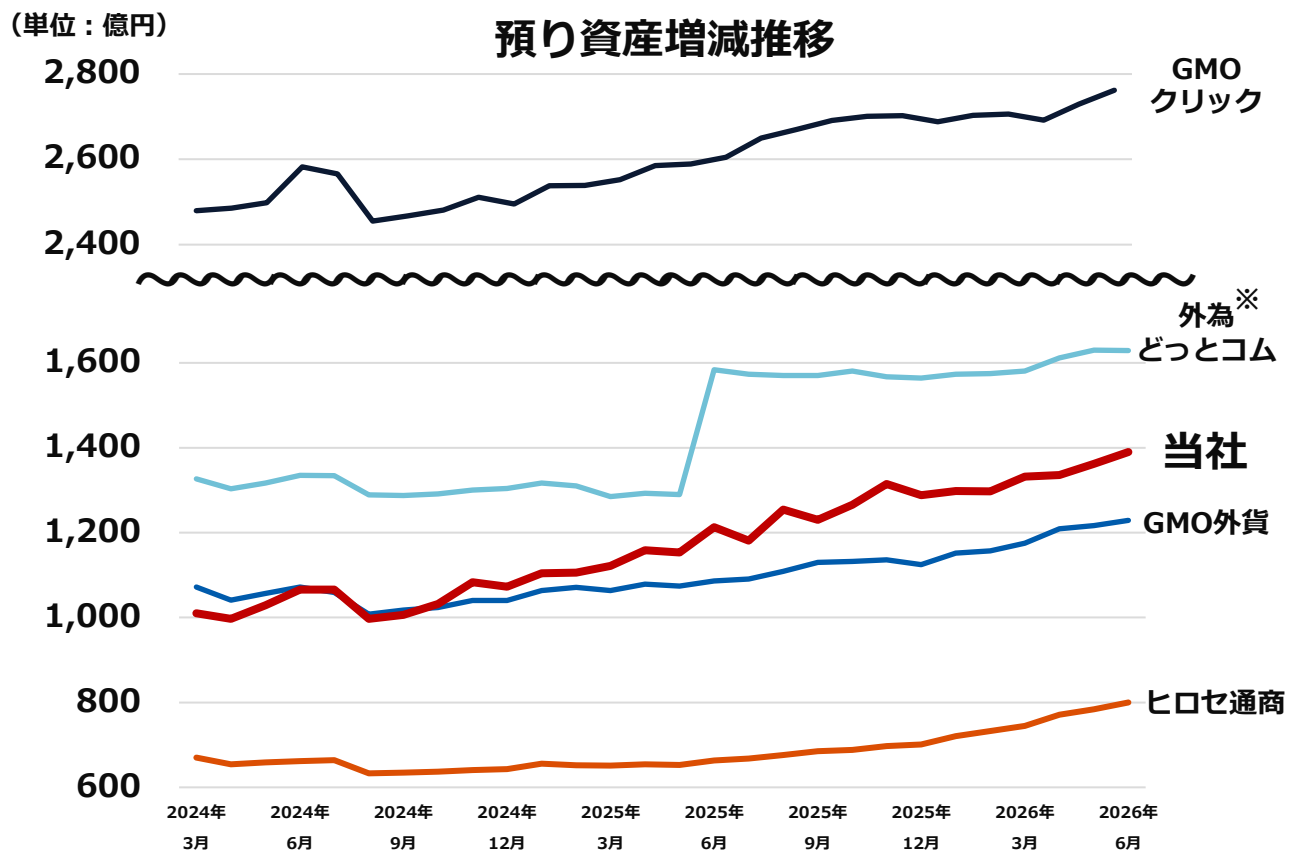


FX業界における預り資産他社比較

金融を、もっと面白く。



- ✓ 当第1四半期は、円安推移の定着や顧客実現利益を反映し、業界各社で預り資産の増加が進む
- ✓ 当社は前期末に大型キャンペーンが終了したことに伴う多額の出金による反動減が期初に発生したため、第1四半期は出遅れスタートとなり、開示比較ベースで業界2位
- ✓ 但し、最高水準のスプレッド・スワップによる競争力を反映した預り資産の増加は順調に推移



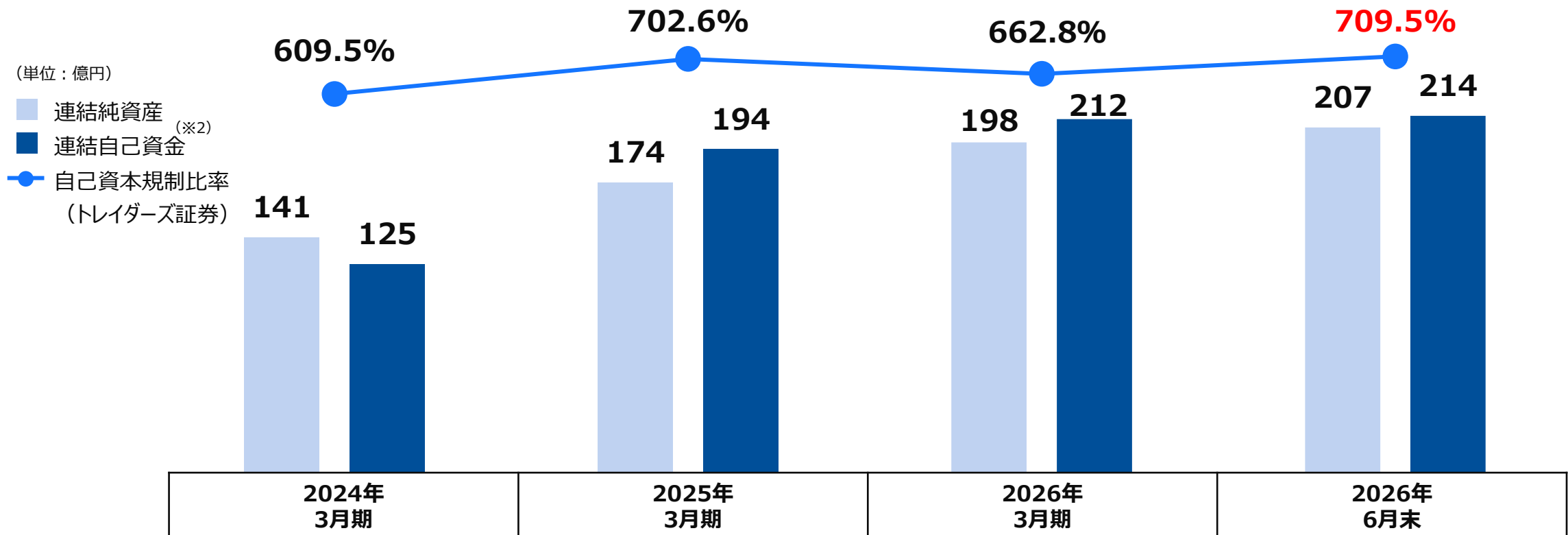
出典：FXに関する月次預り資産をウェブサイト又は開示書類で公表している企業より掲載しております。

連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 自己資本規制比率（金商法第46条の6第1項に基づく比率）は700%超で推移し、安定的水準は確保
- ✓ 今後もリスク計算額の増加に見合う自己資本を確保し、ストレステスト（※1）を踏まえた適切な自己資本余力を維持することで、取引制限の発動による機会損失を発生させない財務管理は引き続き重要
- ✓ 資本の内部留保も重視して「固定化されていない自己資本」を確保し、FX事業への再投資と位置付ける



(※1) 金融商品取引業等に関する内閣府令第123条第1項第21号の4に基づくもの

(※2) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債
(資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



2027年3月期の施策

» 2026年5月に「みんなのオプション」を大幅リニューアル 相場状況に応じた取引機会を拡大
低ボラティリティ局面でも収益機会を創出できる商品として、収益源の強化を推進

- ✓ UI/UX改善
取引画面を刷新し、
相場分析から取引実行までの導線を強化
- ✓ 取引機会の拡大
ターゲットレート拡充、
回号時間見直し、AUD/JPY追加により
取引の選択肢を拡大
- ✓ 情報提供機能の強化
経済カレンダー・経済指標表示を追加し、
顧客の取引判断の支援を強化

2026.05.30 大幅リニューアル!

分かりやすく、快適な取引環境が新登場!

1,000円
未満で
できる投資

3 ステップで
取引できる

PCでも
スマホでも



グランデ歌手 世界3大ボイス
ジョルナン・ラマ

≫ 第1四半期も前期と同水準のペースで特許出願を継続

既出願案件の公開も進み、知財戦略は「出願体制の構築」から「実用化および高度化」へ

出願継続

- ✓ 前期に構築した特許出願体制を活用し、
2027年3月期も
月1件の新規出願を継続し、
前期と同水準のペースで
出願を実現

出願公開

- ✓ 出願していた案件のうち
2件が出願公開
①注文執行に関する特許
②スワップに関する特許
- ✓ 独自プロダクト・サービスに
関する技術的優位性の
可視化が進展

プロダクト実装

- ✓ 3/28リリースの
「新みんなのリピート」は、
相場の価格変動を基準に新規注文
決済注文を自動で都度再設計する
特許出願中の独自ロジックを実装
- ✓ 特許出願中の独自AI技術を活用した
「AI分析レポート」に関しても
6/25にサービス機能を拡充

商品力・開発力・知財を一体で強化し、
模倣困難性の高いプロダクト創出と中長期的な競争優位の確立を推進

2027年3月期の取り組み（マーケティング）

金融を、もっと面白く。



≫ 2026年4月～6月 キャッシュバックキャンペーンや各広告施策を強化 預り資産および新規口座獲得数は順調に増加

- ✓ 「入金キャッシュバックキャンペーン」
「最大200万円超還元プログラム」、
「夏のプレゼントキャンペーン」等の
魅力的なキャンペーンを複数開催
顧客満足度向上、顧客収益機会拡大に寄与
- ✓ 既存顧客の取引活性化および継続利用促進を
目的とした個別還元施策を強化



金融を、もっと面白く。



株主還元

株主還元

金融を、もっと面白く。

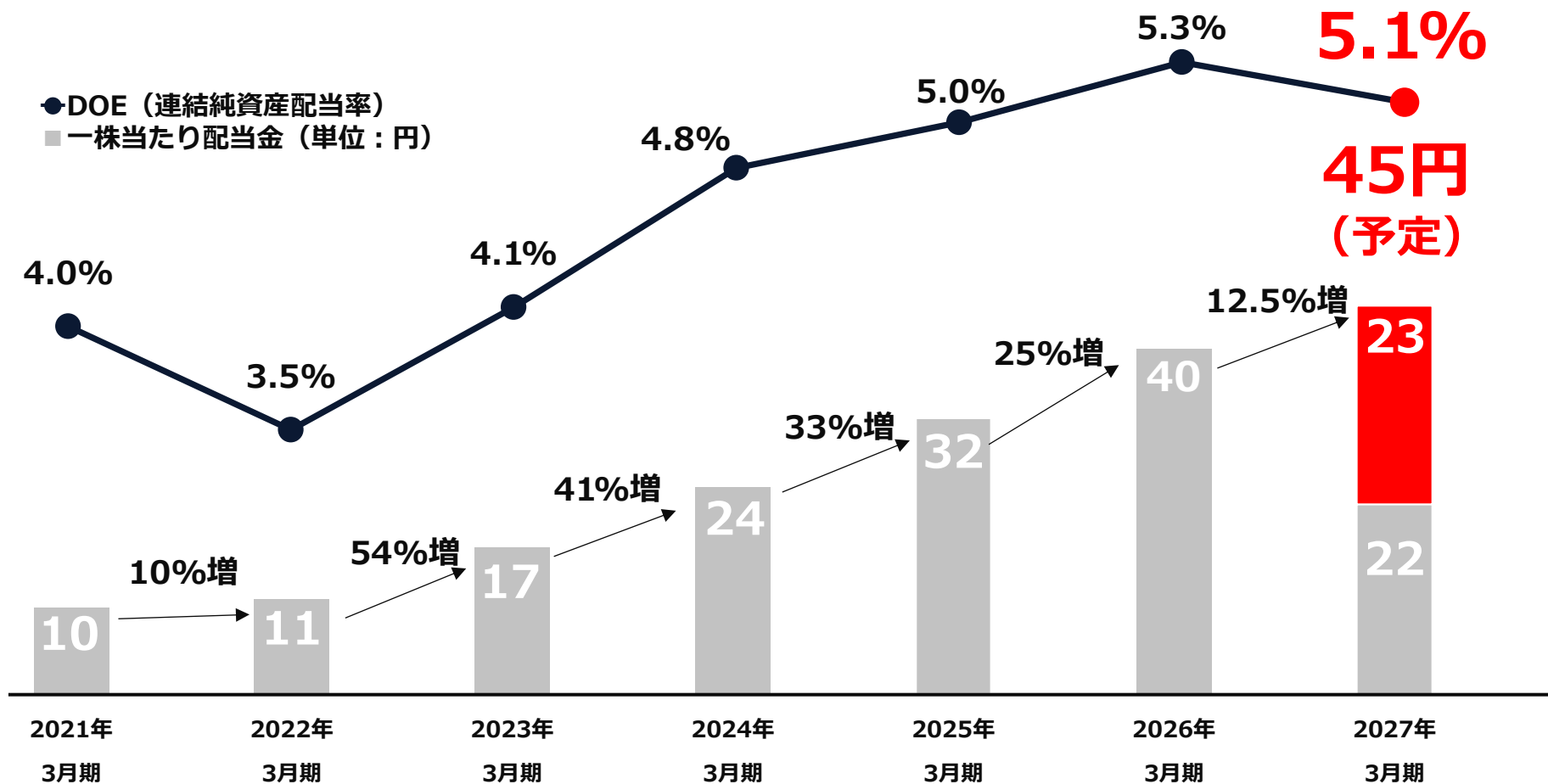


【還元方針】

- ✓ **連結純資産配当率（DOE）5%**を目安に年2回の安定的な配当を継続して行う

【配当予想】

- ✓ 中間配当金22円・期末配当金23円と**年間45円の配当予定に変更はなし**
- ✓ **6期連続増配を予定**



金融を、もっと面白く。



Appendix

Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。

今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み

2026年4月、学習院大学にて約220名の学生を対象に、2回目となる金融経済教育の特別講義を実施
実践的な模擬投資ワークを取り入れ、受講後アンケートでは満足度95%の評価をいただく



本講義は、学習院大学「キャリアデザイン I」講座の一環として実施されました。講義では、人生設計に必要な資金や長期・積立・分散投資の考え方に加え、円安、インフレ、世界的な金利動向、複利効果、行動経済学（プロスペクト理論）などを題材に、「なぜ今、お金を学ぶ必要があるのか」を多角的な視点から解説しました。

学生からは「お金について学ぶことは、世の中の仕組みを学ぶことだと思った」「大学生活の中で最も面白い105分だった」

「経済学・経営学を深く学ぶきっかけになった」と非常に満足度の高いコメントを頂戴しました。

「金融を知識として学ぶ」のではなく、「社会を理解するための教養として捉える」という視点を提示できたことは、大学教育における実践的金融経済教育の可能性を考える一助になったものと認識しています。



金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。



VALUE バリュー

トレーダーズ
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に関するお問合せ

トレーダーズホールディングス株式会社
ir@tradershd.co.jp（IR担当）



金融を、もっと面白く。